

しず老施協

巻頭言



副会長に就任して ～老施協に育てられたことに感謝し、その恩返しを～

静岡県老人福祉施設協議会副会長 増田 公基

本年4月より副会長・西部支部長を拝命いたしました浜松中央長上苑の増田公基でございます。副会長の重責を果たすにははなはだ経験不足ではありますが、種岡会長を補佐し、会員の皆様の利益に繋がる活動をして参りたいと考えております。

さて、全くの力不足を自覚する私が恥ずかしながら副会長をお受けしたのは、老施協に育てていただいたことへの感謝と恩返しをしたいとの思いからです。

私は施設長9年目の若輩者ですが、施設長就任前を含め10年間委員会活動を行い、その間21世紀委員会と研修委員会に所属してまいりました。

21世紀委員会の活動で思い出深いのは、学生セミナーの立ち上げです。これは、大学・高校などへ若手介護職員と共に出向き、講義・グループワークを通して学生に介護現場のリアルを感じてもらい採用につなげようというものです。各施設が個別に行う採用活動や社協等が行うセミナーとは一味違う、現場で働く職員が集まる委員会だからこそできる採用活動をしようと、初めて顔を合わせた所属の異なる施設職員がアイデアを出し協力し合って形にすることができました。これらの21世紀委員会の活動が私を成長させてくれたと感じていますし、メンバー全員が共に成長できたことを嬉しく思っています。

また、研修委員会では、様々な研修会の企画を通して、どう課題を明確にしアプローチするかなど、施設長さんたちと議論を重ねる中で施設長として多くの学びを得ることが出来ました。また余談ですが、県外視

察にも多く行かせていただき、視察の学びもさることながら夜の懇親会で石川相談役や種岡会長を初め老施協重鎮の方々から受けた薫陶が、今の私の血となり肉となっています。本当に老施協に育てていただいた感謝の思いでいっぱいです。

今、介護業界は人材不足など様々な課題を抱えています。そこに、新型コロナの感染拡大、エネルギー価格・物価の高騰が追い打ちをかけています。なんとか乗り切らなければなりません。しかし、この急場をしのいでも「2040年問題」が迫っています。

まさに、私たちが迎えている難局は、老施協が一丸となって立ち向かわなければ乗り越えられません。しかし、どうやって「一丸」となるのか。そのためには、それぞれの施設（施設長）のスキルアップが欠かせないと考えています。なぜなら、一丸となると言っても、施設ごとに「強み」「弱み」は異なります。「強み」を最大限に発揮し他施設も巻き込んで効果を最大化していく。「弱み」は助けが欲しいと発信し、他施設の力を借りながら共に乗り越えていく。一丸となるためには、それぞれの施設が「強み弱みを意識した行動力」「連携する力」を伸ばすことが必要だと考えるからです。

種岡会長の『仲間意識が強固なものとなり、如何なる状況にも対処できる組織体となることを目指す（会長就任巻頭言 令和2年9月号）』の掛け声の下、老施協会員の皆様が一丸となって、一人ひとりが育ちそして組織全体が共に育つお手伝いができればと考えています。

施設の移転改築について



特別養護老人ホーム富士楽寿園
施設長 黒崎 昭彦

開所から47年が経過し老朽化が進んだため、移転改築の運びとなった富士楽寿園は、令和4年5月1日にリニューアルオープン致しました。

「昨夜の大雨で雨漏りしています。」

「地震で壁にヒビが入りました。」

「暖房が行き届かなくて寒いです。」

そんなご利用者や職員の声も、今では少し懐かしい気さえます。機器の突然の故障などでは、何よりもご利用者に不便をおかけしたことをあらためてお詫び申し上げますとともに、職員は「どうしよう」と焦りながらも応急的に対応できる力が培われた面もあったと思います。

以上のような悩みから解放された喜びはありますが、今まで長い間お世話になり、また、たくさんの思い出が詰まった古い建物への感謝も忘れてはいけないと思います。

新しい富士楽寿園は、従来型の多床室から、ユニット型の個室へと変わりました。空調やお風呂、トイレなどの機器も最新のものが導入され、より良い暮らしを提供できるようになりました。ご利用者の中には、以前のように皆でワイワイガヤガヤにぎやかな環境や、喧嘩することもあった生活を懐かしむ声も聞かれます。今はユニットという少人数に分かれて、快適と思われる方もいれば、少し寂しいと思われる方もいるようです。新しい生活に慣れるまでもう少し時間が必要なようです。

職員についても同様で、新しい働き方に慣れるまで今しばらく時間がかかるようです。新しい富士楽寿園では見守りシステムを導入し、ご利用者の安心安全を

常時見守ることができる体制を作りました。また、職員個々にスマホを貸与し、記録はスマホで入力できます。インカムもありますがスマホで連絡を取り合うことができます。このような機器の取扱いが得意な人は良いのですが、苦手な方は苦戦しているようです。また、ユニット単位でのサービス提供になるため、職員も「個」の場面が多く、戸惑いも見られるようです。ひとつずつ乗り越えて、新しい富士楽寿園を積み上げていこうと思います。

施設防災についても触れたいと思います。以前の建物は、ハザードマップの危険エリア外ではあったものの山間部にあり、土砂災害が警戒されました。その視点からもこの度の移転は安心安全を確保する上で良かったと思います。また近隣住民の福祉避難所としても役割を担えればと考えております。併せて、日頃からの住民の皆様との信頼関係の構築も行っていきます。

最後に、老人福祉施設の経営課題は周知のところでありますが、安定的な経営とより質の高いサービスを提供できるよう尽力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



特集2

施設職員のメンタルヘルスについて



あおば社会保険労務士法人
代表社員

藤原英理

施設勤務の職員は対人の仕事かつ職務上予測できない出来事もあるため、心理的ストレスを抱えるケースが多く、特に直近の感染症等の対応で更に高いストレスを覚える職員が増えているのではないのでしょうか。

職員のメンタルケアにおいては、早期発見、早期対応が重要です。しかし、現実的には職員自身が初期段階でメンタル不調に気付くケースは少なく、職場や家族からの情報で発覚するケースが多く見られます。そして、管理者が職場のコミュニケーションを積極的に取る努力、一人一人の職員に関心をもつこと等、良好な職場環境を作ることもメンタルケアにはプラスに働きます。

メンタルケアは管理者の意識向上のみならず、職場での仕組みを整えることも重要です。ベーシックな仕組みの一つとして、相談窓口を設置し気軽に相談できる体制を整えることがあります。相談窓口を設置することで、職場の人間関係に悩む職員を救うことができる他、対人関係におけるハラスメント（法人内の上司や同僚のみならず、利用者及びその家族からのものも含む）も早期発見が可能となります。実際は相談窓口が形骸化している施設も散見されますので、相談窓口の役割を法人が整理した上で、相談内容の事例を職員に広く周知する等、身近に感じてもらう工夫も必要となります。また、相談者のプライバシーを守るためどのような手順で問題を解決していくのかという相談窓口側の職員の教育も重要です。

相談窓口の設置のみならず、メンタル不調者の早期発見や予防に関しては、管理者への研修、一般職員への知識提供、ストレスチェックの積極的活用等を法人の仕組みとして整えておくことが望まれます。

そして、実際にメンタル不調者が発生した場合に、職員が療養し、その後回復して職場復帰できる休職制度を整えることも重要です。トラブルが起こりがちなので、就業規則に定めたいえ、法人として、休職辞令や休職/復職時の取り扱いについての書面（休職期限、主治医の診断と診断書を出すタイミング、療養経過報告義務、休職中の社会保険料の扱い、復職時の産業医面談、復職可能とならなかった場合の措置等）を職員に個別に交付、説明した上で休職していただければ安心かと思います。

職員のメンタルヘルスを良好に保つためには、必要な職場環境を構築することで職員にとって働きやすい職場になり、職員ひいては利用者の満足度の向上が期待できます。厳しい外部環境下ですが、法人としての積極的な取り組みが望まれます。



高齢受刑者の受入先の確保について (特別調整と自立準備ホーム)



法務省 静岡保護観察所
統括保護観察官

大平 義信

法務省では、厚生労働省と連携して、平成21年4月から、受刑者のうち、出所後に帰る場所が確保されていない高齢者や障害者等を対象にして、出所後に福祉サービスを円滑に受けられるように、刑務所、保護観察所、地域生活定着支援センターなどの関係機関が連携して、刑務所で受刑中から必要な調整を行い、出所後の支援につなげる取組を行っています。この取組を「特別調整」と呼んでいます。

福祉サービス等の調整にあたっては、各都道府県に1か所設置されている「地域生活定着支援センター」が、刑務所や保護観察所、地域の福祉等の関係機関と連携して、受刑中から釈放後まで一貫した相談支援を実施しています。静岡県では、社会福祉法人「あしたか太陽の丘」が、県の委託を受け、出所後に帰る場所の確保や、福祉サービスの利用調整を行っています。出所後の受入先としては、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、認知症グループホームなどを調整し、高齢の受刑者が社会に帰る場所の確保に努めています。

しかし、65歳以上の高齢受刑者の数は増加傾向にあり、出所後の受入先の確保が困難となって、出所時までに調整がつかないケースが出てきます。

そういった場合の一時的な受入先として、「自立準備ホーム」があります。法務省では、刑務所出所者等で、住居の確保が困難な者に対して、あらかじめ保護観察所に登録した民間法人・団体等の事業者に、宿泊

場所の提供や自立のための生活支援、必要に応じて食事の提供を委託しています。この宿泊場所を「自立準備ホーム」と呼んでいます。

令和3年3月31日に厚生労働省から、都道府県知事、指定都市市長、中核市市長あてに発出された「多様な社会参加への支援に向けた地域資源の活用について(通知)」では、既存の社会福祉施設や福祉サービス事業者等が、定員の空き定員を活用して、本来の業務に支障の無い範囲で、本来の支援対象者とは別に社会参加支援対象者を受け入れる場合の考え方が整理されており、養護老人ホーム、認知症グループホーム、無料低額宿泊所等の施設が「自立準備ホーム」として登録していただくことが可能です。

行き場のない高齢者の再犯を防ぐため、高齢者施設を運営する皆様には、保護観察所の「自立準備ホーム」に登録していただくことを御検討いただければ幸いです。問い合わせ先は静岡保護観察所(054-253-0191)になります。御理解と御協力をお願いいたします。



委員会紹介

企画経営委員会の活動紹介



企画経営委員会委員長
杉山 弘年
(さつき園施設長)

今年度より企画経営委員会委員長を拝命しました杉山弘年と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。ご承知の通り当協議会の会員は、社会福祉法人が運営する施設として、地域ニーズに応えた良質な介護サービスを定量的に提供する責務を担っており、地域社会や行政との連携による安定的な経営が必要であります。

また、医療と介護の連携による地域包括ケアシステムでは、急性期・慢性期医療後の福祉的ケアが重要となっている一方で、介護の現場においては、サービスに当たる人材不足や利用ニーズの偏在に加え、施設の老朽化や突発的災害への対応など多くの課題を抱えており、会員施設の経営環境は依然として厳しい状況下にあります。

そこで当委員会では、今年度の事業計画にもあります、「介護は人なり」を本旨として、介護人材の確保・養成、働き方改革への対応やICT導入をはじめとするデジタル化推進等による業務効率化など、今日的課題の解決への取り組みが喫緊の課題であり、さらには、新型コロナウイルス感染症の広がりを踏まえて、感染症対策に引き続き積極的に取り組む必要があると考えております。このような各課題に対しスピード感をもって対応していくために、下記の3チームによる体制で活動していくこととなりました。

各チームの活動目標は次の通りとなります。

- ① 【要望書作成チーム】 介護保険制度改定を取り巻く各種別の課題について、情報の共有化を図る事を目的とした静岡県健康福祉部（福祉長寿局）との懇談会の開催を行います。各種課題を改善していくためのエビデンス（他チームの調査研究データ）に基づいた要望書を作成して、県政の速やかな施策に反映して頂けるように努めます。
- ② 【人材アンケートチーム】 介護人材の確保・養成、働き方改革への対応等、会員の経営課題に関するアンケート調査と研究を実施します。現状の人材不足の影響等の実態調査を行い、県政の施策立案につながるような情報収集と研究に努めます。
- ③ 【DX（デジタル）化の調査・研究チーム】 慢性的課題の人材不足・働き方改革への対応やICT導入をはじめとするDX化への推進等による業務の効率化とサービスの質の向上を目的とし、これからの介護現場におけるデジタル技術の活用について調査・研究を行います。

以上、それぞれ各チームが連携して本協議会会員の経営課題に速やかに対応できる活動と成果物等が提供できるように努めていく所存でございます。皆さま方には、今後の本委員会からのアンケート調査等へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

要望活動の紹介

～県・静岡市・浜松市・自民党県議連への要望活動について～

令和4年8月31日（水）に県幹部への要望活動、9月1日（木）に浜松市幹部への要望活動、9月5日（月）に静岡市幹部への要望活動、9月13日（火）に自民党県議連への要望活動を行いました。

<要望書の項目と要旨>

I 新型コロナウイルス感染症への対応について

感染予防に向けた体制として今後の追加ワクチン接種に係る高齢者施設の入居者及び職員への優先接種、高齢者施設で感染が発生した場合の対応等の初期対応として医療専門家（DMAT等）チームによる速やかな現場指導等の実施、事業所の経営支援等として感染症発生に伴うかかり増し経費の予算措置の継続など

II 物価高騰への対応について

光熱水費を始め物価高騰への緊急支援策の一日も早い実現と、県から各市町に対して高齢者施設支援についての積極的な働きかけなど

III 介護人材の確保・養成・定着に向けた取り組みについて

人材採用促進のため、引き続き「就職フェア」等の開催回数の増加やマッチング機会の拡大や参加者増加への取組など

IV 福祉施設でのデジタル化の推進について

科学的介護推進体制加算（LIFE加算）に係るフィードバックデータ活用マニュアルの作成や研修会の開催など

V 防災・防犯対策の充実・強化について

防災対策としてBCP（事業継続計画）の策定支援及び実行性確保のための人的・物的支援や、防犯対策として施設の防犯対策助成メニューの確保及び拡充など

VI 福祉施設の老朽化への対応について

福祉施設機能維持のため建物や既存高額設備（ボイラー・空調機器、配管設備、エレベーター等）の修繕、又は更新に係る経費への支援など

VII 各委員会要望について

特養委員会からは、日常生活継続支援加算の要件の見直しなど、養護委員会からは、養護老人ホームに従事する職員の処遇改善など、軽費委員会からは、入居者所得の下限区分細分化による低所得者負担軽減など、地域ケア委員会からは、介護支援専門員の更新研修の助成金制度の検討など、について要望しました。

要 望 書

“未来へつなぐ ふじのくにの介護力”

令和4年8月31日

静岡県副知事
森 貴 志 様

静岡県老人福祉施設協議会
会長 種岡 養一

※ 要望書(全文)は老施協HPのピックアップに掲載しています。

こちらから ⇒



【県への要望】

森 副知事訪問



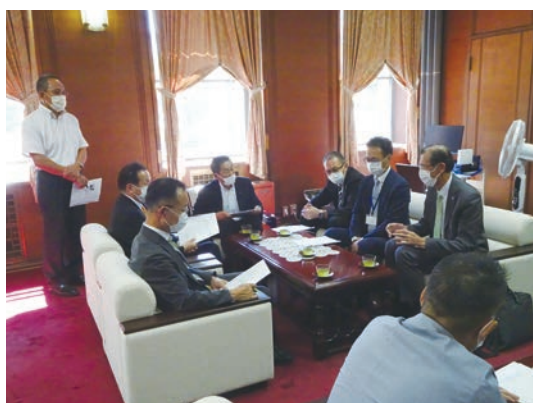
左から大塚副会長、種岡会長、森副知事、石川相談役、前田副会長、増田副会長



八木 県健康福祉部長訪問



【自民党県議連への要望】



左から種岡会長、自民党介護議連の皆さん（鈴木澄美県議、宮沢県議、良知県議、宮城県議、中田県議、増田県議、望月県議）

【政令市への要望】

増田 静岡市保健福祉長寿局長訪問



山下 浜松市健康福祉部長訪問



支部紹介(中部支部)

介護・福祉の魅力の伝道師達 ～3年ぶりの中部地区 介護の魅力増セミナー～



21世紀委員会中部地区担当
カリタス21施設長

海野直秀

少子高齢化が進み、生産労働人口の減少が著しい昨今、日本経済社会の中で働いてくれる人財不足は、どの分野においても問題となっていますが、私達が日々とりくんでいる高齢者介護、福祉の世界においても当然顕著になっています。近年では介護系の専門学校や大学でも入学者が減少し、また卒業しても介護以外の仕事に就職してしまう方も少なからずいらっしゃいます。

介護・福祉の仕事はどんなにIT・ICT・ロボット等が発達しても、「人への想い」「人の力」が重要であり、「介護人財」が必要です。これからの超高齢社会、若い人達が介護・福祉の世界に興味を持ち、一緒に働いてくれるようになるために、静岡県老協の21世紀委員会では数年前から「介護の魅力増セミナー（通称：学生セミナー）」と題し、福祉関連の学部学科のある大学や専門学校、高校へ出向き、各施設の若手職員が学校の生徒達に向けて自分の体験談を話したり、学生達と交流しながら気軽に質問に答えたりする場を作ってきました。

このセミナーは静岡県内、東部、中部、西部の3地区の会員施設が協力して各学校との調整を行い、毎年各地区1～3校で実施されてきました。中部においても、中部支部に所属する主に特養各施設の担当が、普段実習や就職でお世話になっている静岡県立短大や、静岡福祉医療専門学校、そして今回実施した静岡福祉大学などに、「介護の魅力、社会福祉法人の魅力を学生の皆さんへお伝えする機会を持たせていただきたい」

と毎年アプローチして参りました。

新型コロナの影響でこの2年以上開催することができなかったこのセミナーを、令和4年7月27日、静岡県焼津市にある静岡福祉大学で開催しました。中部地区にある特養四施設、保育園一施設の協力を得て、静岡福祉大学を卒業した職員の皆さんが、約150名の学生の皆さんに、介護の世界・福祉の世界でのやりがい、働きがい、そして社会福祉法人に勤めるメリットを丁寧にお話しいただきました。

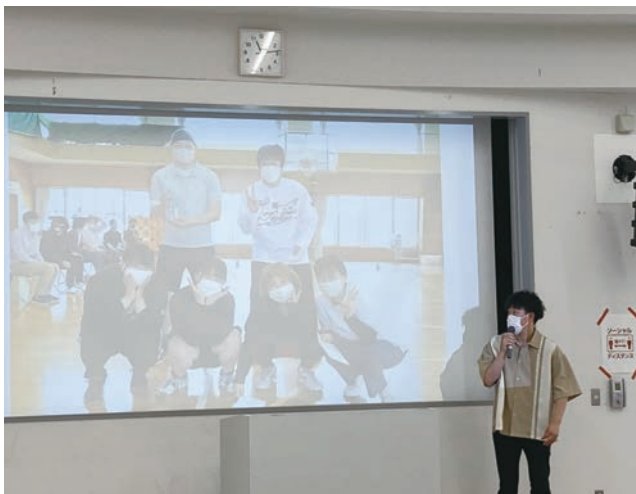
発表者は、今年新卒で勤務してくれている方から入社数年経過し、新人指導まで行っている中堅職員まで、利用者様との関わりの中で「ほっこり」したできごと、職場での楽しみ、プライベートの時間の使い方、学生時代から就職に至るまでの考えや経緯など、学生の皆さんが「知りたい」であろうことを、それぞれの経験と自分なりの視点で発表して下さいました。学校側のご協力により、授業の一環としてこの場をご提供いただいたため、多くの学生の皆さんにご参加いただき、壇上の演者を見つめ、時折メモを取るなど、とても熱心に話を聞いていただいている様子が見てとれました。



静岡福祉大学（焼津市）

発表後の質問タイムではなかなか学生の皆さんからの質問は出ず、授業を担当された先生が、今年新卒入社の方2名を中心に、仕事を始めて「良かったこと」だけでなく、「大変なこと」「しんどいこと」などを聞き出して、新人職員の「リアルな声」を学生の皆さんには届けることができている。

アンケートでは、今回のセミナーへの満足度は概ね高評価をいただいております。「社会福祉法人への就職に対する興味」もほとんどの方が興味を持っています。今回、参加学生の皆さんが少しでも返答しやすく、また自由記述の質問などが出やすいようにスマートフォンを使ってのアンケートを実施したところ、22件のご意見を頂戴することができましたので1部ご紹介いたします。



(自由記述 アンケート回答 一部抜粋)

- ・施設での仕事について様子ややりがい、取り組みなどを聴くことができこれからの就職を考えるためにいい機会だと思いました
- ・勤務体系や職場の時間割などをもっと知りたかった。記録の書き方なども知りたかった
- ・学生時代のその職業に対する向き合い方や苦勞などがあるともっと共感できると思った



学生セミナー参加の21世紀委員と施設の応援職員の皆さん

- ・福利厚生について
- ・介護の職場は厳しいとおもっていたけれど、やはり皆さんが優しそうで興味が湧きました。厳しいところも教えてください。とてもありがたかったので、現実をお話しして下さり助かります。

短い時間の中でも学生の皆さんが今回のセミナーへの興味が高かったことが感じられ、また今後介護、福祉の世界への就職を検討するために有意義な時間になったことが伺える内容だと思います。

冒頭でも記載した通り、私達の仕事は「人への想い」「人の力」が必要不可欠で、まだまだ進む超高齢社会の中で共に「お年寄りが幸せな人生を過ごすお手伝い」をしてくれる仲間が必要です。年々介護職の成り手が減少している中、福祉養成校に通っている生徒さん達が、他業界でなく介護・福祉へ、そして社会福祉法人へ興味を持っていただけるよう活動を継続し介護・福祉の魅力を発信し続け、共に利用者様の幸せを追い続けてくれる仲間を増やしていきたいです。中部支部としてもこの活動に期待を寄せ、今後できる限りのバックアップをして参ります。

職員紹介

各施設の職員にお聞きしました。

- Q ① 氏名・職種 ② 最近あったうれしいことは ③ 好きなタレント、スポーツ選手
④ もし宝くじで1億円当たったら何に使いますか ⑤ 今後どんな施設（職場）にしていきたいですか
⑥ 施設を選んだきっかけや決め手は何ですか

みはるの丘浮島

(沼津市)

- ① 二瓶大地（入居介護士）
- ② 介護福祉士試験に合格
ゲーム(Splatoon)の腕前が上達したこと
- ③ 八村 塁選手（バスケット）
渡邊雄太選手（バスケット）
幼いころからバスケが好きで現在は
社会人チームに所属
- ④ 車のローンの返済 貯金 旅行（本場のNBAの観戦）
- ⑤ ご利用者が不安を抱えず、喜怒哀楽を一緒に共感でき
るような施設にしていきたいです
- ⑥ 自宅から一番近い施設（特別養護老人ホーム）だったから（笑）



ノアノアテラス

(沼津市)

- ① 森田晃吉（介護職員）
- ② 鰻を食べた事
- ③ 浜辺美波
- ④ 夢のマイホームを建てる
- ⑤ 活気のある職場
- ⑥ 専門的知識や技術、人として成長
出来ると思ったから



ケアハウス白寿荘

(静岡市駿河区)

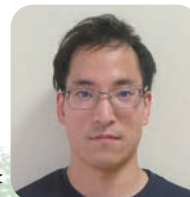
- ① 大石里香（看護師）
- ② 応募した抽選旅行が当たったこと。
- ③ 深田恭子
- ④ コロナが落ち着いていたら世界一周クルーズ
- ⑤ 利用者様が穏やかな生活を送れるよう、これからも気
配りのきいた職場を維持していきたい。
- ⑥ 利用者様が明るく楽しそうに過ご
されており、自分もスタッフの一
員として、生活に寄り添ってい
きたいと思ったから



ふじトピア

(藤枝市)

- ① 大竹 匠（機能訓練指導員）
- ② マラソン、レース用のシューズを新
調しました。
- ③ 大迫 傑・鈴木一郎（イチロー）
- ④ ランボルギーニとマクラーレンを購入
- ⑤ やすらぎの施設として、利用者様やご家族様にとって
助けとなり、笑いの絶えない施設を作りたいです。
- ⑥ 就職活動の際に、当施設で認知症
対応型デイサービスもあること
を知りました。多くの利用者様に関
わることで人間として成長でき
ばと思い選びました。



遠州の園

(磐田市)

- ① 岡本鮎奈（介護福祉士）
- ② 久しぶりに地元の友達に会えたこと。
休み明けに出勤したら、入居者様に
「寂しかったよ…」と言っていたこと
- ③ サッカー選手（三浦龍輝選手・川又堅基選手）
- ④ 貯金します。欲しい車を購入する。サッカーの試合の
アウェイ観戦と観光をする。
- ⑤ 入居者様が暮らしやすい施設にして
いきたいです。ドライブ企画をも
つとして、入居者様に楽しんでもら
いたい。職員全員が働きやすい環境
にしていきたいです。
- ⑥ 家からの通える距離であること。
プリセプター制度があること。



掛川市ききょう荘

(掛川市)

- ① S.S（生活相談員）
- ② 初めて子供が立ったこと
- ③ ジュピロ磐田
- ④ 47都道府県家族旅行
- ⑤ 明るく楽しい施設
- ⑥ 育児休業を終えて令和4年8月から
新たに配属されました。子育ても仕
事も頑張りたいと思います。



どうぞよろしくお願ひします

会員施設の紹介

特別養護老人ホーム **ぬくもりの里**

【一言キャッチフレーズ】

『豊かな自然に囲まれ広々した施設です』

【施設概要】

- ・施設名：特別養護老人ホーム ぬくもりの里
- ・施設長名：飯田 忠
- ・運営法人：社会福祉法人 春風会
- ・基本理念：『私たち春風会は、社会福祉法人という公益性・公共性という法人の本質を遵守し、高齢者・障がい児者の人権の擁護、利用者本位のサービスの実現、福祉施設を拠点とした地域福祉の推進、予防的福祉の実践、青少年の福祉教育の推進などに努め、今後も福祉サービスの中心的役割を果たして、地域住民と行政の信頼と期待に応えていきます』
- ・開所日：平成7年4月1日
- ・所在地：伊豆の国市田京1259番地の29
- ・提供サービス：介護老人福祉施設／短期入所生活介護／通所介護
- ・定員数：70名／20名／35名



※詳細版は
こちらから ⇒

特別養護老人ホーム **大井川睦園**

【一言キャッチフレーズ】

「ご利用者から選ばれる施設を構築し、常にその質の向上に対し全職員が努力貢献いたします」

【施設概要】

- ・施設名：特別養護老人ホーム大井川睦園
- ・施設長名：青木恵子
- ・運営法人：社会福祉法人厚生会
- ・理念：『基本的人権の尊重』『健全な援護と支援の実現』『社会的自立の援助』『地域福祉との密接な連携』
- ・開所日：平成3年10月29日
- ・所在地：焼津市高新田2326番58
- ・提供サービス：介護老人福祉施設、短期入所生活介護、通所介護、居宅介護支援
- ・定員数：介護老人福祉施設80名、短期入所20名、通所介護30名



※詳細版はこちらから ⇒

ケアハウス **あんしんの里**

【一言キャッチフレーズ】

「住み慣れた地域でいつまでもあんしんした生活が送れるよう、新しい時代の介護を目指します。」

【施設概要】

- ・施設名：ケアハウスあんしんの里
- ・施設長名：大場清弘
- ・運営法人：社会福祉法人八生会
- ・法人理念：「一つの空のもと、全ての人が安心して生活できる社会を目指し、たゆまぬ努力を続けます。」
- ・開所日：平成16年7月1日
- ・所在地：静岡県浜松市東区安新町33-1
- ・提供サービス：ケアハウス一般型、特定型、通所介護、認知症対応型通所介護、短期入所生活介護、訪問介護、生活支援ハウス
- ・定員数：ケアハウス一般型20名、特定型40名、通所介護35名、認知症対応型通所介護10名、短期入所生活介護20名、生活支援ハウス8名



※詳細版はこちらから ⇒

令和4年度老施協活動報告（令和4年7月1日～令和4年10月31日）

【老施協】

- ★7月29日 正副会長会議 会運営方針の協議等
- ★8月26日 第2回理事会
委員会委員の補欠の選任、令和4年度会長表彰受賞者の決定、防災訓練の実施案、介護の日啓発活動、第11回静岡県高齢者福祉研究大会等
- ★8月26日 県（福祉長寿局）との懇談会（県政さわやかタウンミーティング）



- ★8月31日 県への要望活動（相談役・正副会長）
- ★9月1日 浜松市への要望活動（会長、西部支部長 等）
- ★9月5日 静岡市への要望活動（会長、中部支部長 等）
- ★9月13日 自民党県議連への要望活動（相談役・正副会長 等）
- ★9月13日 正副会長会議 会運営方針の協議等
- ※新型コロナウイルス感染症対策
 - 7月25日 第1回新型コロナ応援職員研修会（サーラシティ浜松）
 - 8月1日 第2回新型コロナ応援職員研修会（プラサヴェルデ）
 - 8月12日 第3回新型コロナ応援職員研修会（シズウエル）



【企画経営委員会】

- ★7月21日 第2回委員会
アンケート調査結果、要望活動等
- ★9月29日 第3回委員会
DX化調査・研究等

【広報委員会】

- ★7月14日 第2回委員会
『しず老施協』第65号の企画、老施協ホームページ

【研修委員会】

- ★7月26日 接遇マナー研修（リモート）
- ★8月17日 第3回委員会
接遇マナー研修開催結果、人材育成研修、施設長研修等
- ★9月20日 人材育成研修（リモート）
- ★10月14日 人材育成研修その2（シズウエル）
- ★10月28日 第4回委員会
人材育成研修、施設長研修等

【21世紀委員会】

- ★8月23日 第3回委員会
「介護の日ポスター」選定及び編集
- ★9月16日 臨時打合せ
「介護の日ポスター」決定及び配布先確認

【特養委員会】

- 7月1日～9月30日 待機・入所状況調査アンケート配布・集計
- ★10月25日 第3回委員会
待機・入所状況調査報告書等

【地域ケア委員会】

- ★7月7日 第2回委員会
県への要望、在宅サービス（通所介護、訪問介護）に関する調査
- ★9月8日 第3回委員会
県への要望報告、在宅サービスアンケートの実施

編集後記

ある日、街中でふと周りを見てみると行き交う人々がスマホを操作しながら歩いていました。学校でもタブレット端末を用いた授業が開始され、ネットワーク環境さえあればほとんどの事を知る事ができ、世界中を旅する事が出来る時代。

人との関わりにおいてもSNS等でのコミュニケーションが一般化されている世の中、さらにコロナ禍もあり人と接することが減っている現在、対人援助職が基本の介護において次世代の担い手である今の子供たちはこれからどんな介護を目指すのでしょうか。

コミュニケーションせずとも相手の気持ちがわかるアプリか何かで心まで読み解かれてしまうのか、レク

リエーションや散歩、機能訓練はVR空間の中で行うようになるのか、いろいろ想像していくと人と関わる、接するという事も随分と形を変えていっている事に気付かされました。

先人達が築き、その延長線上にいる自分、後方へ続く線の先にいる次世代。

私たちが踏襲と改革を使い分けながら、次の担い手に上手く引き継いでいけたらと思います。

そしていつか私もお世話になるであろう『新しい介護の形』はどのようなものになるのか楽しみにしています。

（鈴木克哉）